

新聞社の新しい役割とは

関大生6人研究成果発表



「入に活路がある」などと提案した。

兵庫県内の中小企業と大学生の就職マッチングを支援する「Mラ

ボ」事業（神戸新聞社など主催）の一環。2014年、甲南大と関

西大の学生が「若者と新聞」をテーマに取り

組んだ調査研究をさらに深めた。

インタビューやアンケートから「紙媒体は

新規顧客の増加が見込めない」と指摘し、ピ

ジネスの多角化の必要性を強調。新聞社が地

域から得ている信頼性の高さや情報量の豊富

さを強みに「観光情報を統括し、観光客のニ

ーズを把握した上でプロモーションを行う子

会社を設立しては」と提案した。

若者の視点による新聞研究の発表会が19日、神戸市中央区東川崎町1の神戸新聞本社であった。関西大商学部西岡健一准教授（47）のゼミ生、3年生6人が「新たな新聞社の役割と地域創生」をテーマに研究成果を報告。「地方密着の情報を生かした観光事業への参



調査結果を基に、新聞社の新たな役割を提案する大学生＝神戸新聞社

同時に、増加する訪日外国人に着目。「足を運んでもらうには」地域ならではのストーリーを提示し、他の地方との差別化を図る必要がある」などと説明した。

（小尾絵生）